

(a)

特願2003-066970

ページ： 1/

**【書類名】** 刊行物等提出書  
**【提出日】** 平成16年 7月26日  
**【あて先】** 特許庁長官 殿  
**【事件の表示】**  
**【出願番号】** 特願2003- 66970  
**【提出者】**  
**【住所又は居所】** 省略  
**【氏名又は名称】** 省略  
**【提出する刊行物等】** 刊行物（1）：特公昭57-3415号公報 刊行物（2）：特開昭57-110338号公報  
**【提出の理由】**

1. 序 本願発明は、平成14年8月20日に出願され、平成15年3月1・2日に国内優先制度を採用し、平成16年5月1・3日付で公開された ものであるが、本件特許出願前に頒布された刊行物に記載された発明 に基づいて容易に発明し得るものであるため特許法第29条第2項の 規程に該当し、拒絶されるべきものであることを以下に説明します。2. 本願発明について 2-1 本願発明の発明特定事項 本願発明の発明特定事項は、次のとおりあります。 (1) 請求項1記載の発明 ▲1▼粒塊状をなす担体に触媒成分が担持されてなる触媒の製造方法 であって、 ▲2▼前記触媒成分を含む触媒前駆体と前記担体とが収容された処理 容器を、 ▲3▼回転させるとともに揺動させることにより、 ▲4▼前記担体に前記触媒成分を担持させる、 ▲5▼ことを特徴とする、触媒の製造方法 (2) 請求項2記載の発明 ▲1▼前記触媒前駆体が、 ▲2▼前記触媒成分を含む粉体、 ▲3▼前記触媒成分を含む溶液、および、 ▲4▼前記触媒成分を含む懸濁液からなる群より ▲5▼選ばれる何れか1種の形態をなす、請求項1記載の触媒の製造 方法。 (3) 請求項3記載の発明 ▲1▼前記処理容器が、直徑に対して1～3倍の長さを有する円筒状 をなし、 ▲2▼その中心軸が水平方向に配置され、 ▲3▼前記担体が、前記処理容器の容量に対して10～60%収容され、 ▲4▼前記回転が、前記中心軸回りに5～60 rpmで回転させ、 ▲5▼前記揺動が、前記中心軸を上下方向の揺動角度5～90° で ▲6▼1～12 rpmで揺動させる、 ▲7▼請求項1または2に記載の触媒の製造方法。

2-2 本願発明の効果 本願発明は以下のようない効果を奏します。 触媒前駆体と担体とが収容された処理容器を回転させるとともに 揺動させることによって、担体に対する触媒成分の担持を効率的かつ均一に行え、歩留まりや触媒強度を高め、粒度のバラツキを少なくすることができます。3 本願発明と刊行物との対比 (1) 請求項1記載の発明について 請求項1記載の発明に対しては、刊行物（1）、（2）を提出します。 提出する刊行物（1）の第1頁右欄第17行目乃至第20行目 に、「ブーリー機構と連結せられた摩擦車によって攪拌ドラムを 回転せしめると同時にクランク機構によって該攪拌ドラムをシーソーの如く上下揺動せしめて攪拌する・・・」と記載されており、また、第2頁左欄第33行目乃至第35行目には、「攪拌ドラムの 回転速度及び上昇下降角度、上昇下降速度を多種変化せしめて攪拌すれば攪拌物の性質に応じた攪拌が出来るのである。」と記載されております。さらに、提出する刊行物（2）においては「触媒 成分が担体に担持されている触媒の製法」について

特願 2003-066970

ページ： 2/

の発明が明瞭に記載されております。以上のことから、本提出書の2-1項において本願発明の発明 特定事項の(1)に示す請求項1記載の発明▲1▼～▲5▼は、単に、刊行物(2)に記載されている従来から周知である触媒の製造を、同じく従来から公知である刊行物(1)に記載されている攪拌装置もしくは、混合装置を使用して触媒を製造するための方法であり、格別創作性を必要とするものではありません。(2)請求項2記載の発明について 本願請求項2記載の発明に対しては、刊行物(2)を提出します。提出する刊行物(2)の第3頁上段右欄第19行目乃至下段左欄第4行目に「触媒成分の担体への担持は、触媒成分を含有する組成物と担体とを混合して、組成物を担体に担持させた後、該組成物が担持されている担体を焼成することによって行われる。触媒成分を含有する組成物は、スラリー状、粘土状、粉末状のいずれでもよい。」と明示されています。この点につきましては、前記2-1項において本願発明の発明 特定事項の(2)に示す請求項2記載の発明の▲2▼については、上記刊行物(2)記載事項に示されている事項と同じであることは言うまでもありません。また、▲3▼、▲4▼の溶液、懸濁液を使用することにつきましても、上記刊行物(2)記載事項に対し、特別に新規性、進歩性を有するものでなく、組成物の使用範囲を単に列挙したに過ぎません。なお、本願請求項2に記載されている「触媒前駆体」は、本願発明の公開公報第4頁

\*\*\*

【提出の理由】

特願2003-066970

ページ： 3/E

【0017】

に「担体に担持させる触媒成分を供給する供給源となる。」と説明されており、これは前記刊行物(2)に記載されている「触媒成分を含有する組成物」に相当するものであります。以上のことから、前記2-1項において本願発明の発明特定事項の(2)に示す請求項2記載の発明▲1▼～▲4▼は、上記刊行物(2)から容易に想到でき、格別創作性を必要とするものではありません。(3)請求項3記載の発明について本願請求項3記載の発明に対しては、刊行物(1)、(2)を提出します。提出する刊行物(2)の第5頁上段右欄第7行目乃至10行目には、「転動造粒機の回転皿に入れ、・・・25 RPMで回転させながら、前記組成物55gを散布し、1時間混合して組成物を、一アルミナ粒子に担持させた。」と記載されています。また、提出する刊行物(1)の第3頁に示す第1図においては、攪拌ドラムが40°(23°+17°)の揺動角度で揺動することが明瞭に示されており、前記2-1項において本願発明の発明特定事項の(3)に示す請求項3記載の発明▲4▼、▲5▼に相当するものであります。また、刊行物(2)に記載されている混合容器は回転皿であります、混合する場合に用いる容器であることに変わりありません。さらに、処理容器が直徑の1～3倍の長さの円筒状であり、かつ、担体の収容量、処理容器の回転・揺動を数値により限定しておりますが、この数値による限定につきましては、刊行物(1)に「攪拌物の性質に応じて設定することができる」と明瞭に示されている点を考慮すれば、当業者が任意に選択すればよいことであり、格別創作性を必要とするものではありません。以上のことから、2-1項において本願発明の発明特定事項の(3)に示す請求項3記載の発明▲4▼、▲5▼は提出する刊行物(1)、(2)から容易に想到でき、特別な創意性はありません。

4 結論  
 以上のように、本願請求項1乃至3記載の発明の発明特定事項は、提出する刊行物(1)、(2)に開示もしくは示唆されており、また、本願発明の効果は、提出する刊行物(1)、刊行物(2)からも予測できるため、本願は、当該技術分野において通常の知識を有するもので、あれば容易に発明し得るものであるため、特許法第29条第2項に該当し、拒絶すべきものである。

( b )

LI ANSWER 2 OF 2 WPIX COPYRIGHT 2004 THOMSON DERWENT on STN  
TI Stirring appts. for food powder - comprising stirring drum, supported on friction wheels, coupled to turntable driven by motor (J5 10.7.79).  
PI JP 57003415 B 19820121 (198207)\* 5  
JP 54086674 A 19790710 (198207) ←  
AB JP 82003415 B UPAB: 19930915  
Appts. for stirring food powder comprises a turntable with four friction wheels located at its corners, motor mounted on the table to drive the wheels, and stirring drum supported with the wheels to turn the drum coupled to the turntable. (J54086674)